

問題（200点）

<出題の意図>

課題文は、松村圭一郎『はみ出しの人類学——ともに生きる方法』（NHK出版、2020年）からの抜粋である。「多文化共生」や「異文化理解」という言葉が当たり前のようになっている今日、実は文化や国家、宗教について「差異」や「分断」が前提とされていることを指摘した上で、人のアイデンティティは本来複数的なものであり、人と人、集団と集団の境界を一意的かつ固定的、絶対的に捉えることの危険性を説明している。

受験者には、既存の「差異」や「分断」を乗り越えるために必要なこととして著者が説明している「異なる複数の境界線を引く」について、それが必要とされる今日的な状況やその前提となるアイデンティティに関する理解、また、それによって目指される姿を説明するのに適した具体例を挙げながら、その意味を論述することを求めている。

<採点のポイント>

以下の点について、「関心・意欲」「思考力・判断力・表現力」を重点的に評価する。

- ・「異なる複数の境界線を引く」の意味や前提、目的なども含めて、課題文の内容を正確に読み取っているか。
- ・「異なる複数の境界線を引く」の具体例として適切な内容を書いているか。
- ・論理的な構成と的確な表現によって説得的な小論文となっているか。